D 80　日常の生活行動にみる環境・資源意識と衣服の調達行動との関連
－大学生の場合－

熊本大教育　○高森壽　大妻女大家政　松山容子

目的　近年，環境保全，省資源を推進するため，国，地方公共団体および消費者団体等が中心となって，種々の対策が講じられ，さまざまな活動が展開されている．しかし，着用されることなく家庭内で眠っている衣服や衣料廃棄物に関しては，ほとんど注目されていない．本報では，大学生の日常の生活行動および衣服の調達行動を調査し，環境・資源に関する意識と衣服の調達行動との関連について考察した．

方法　熊本大学教育学部の男女学生323名を対象として，質問紙留置法を用いて，1991年9月下旬～10月下旬に調査を実施した．主な調査内容は，1）死蔵衣服の発生原因，2）衣服の廃棄方法，3）衣服の調達行動，4）環境保全および省資源・省エネルギーへの関心度，5）日常における生活行動である．

結果　死蔵衣服の発生原因は衣服の用途および性別により差があったが，衣服の廃棄方法は，用途，性別を問わず「そのまましまっておく」，「ゴミとして捨てる」が多かった．「他人に譲る」，「再生利用する」等の衣料の「再資源化」につながる方法を採るのは女子学生の方が多かった．環境保全および省資源等への関心は男女ともに高かった．生活行動と衣服の調達行動との関連は，下着類の調達行動において，とくに環境保全・省資源に関する生活行動の多くと関連が認められた．普段着・家庭着，通学着の場合は，「手入れや取扱い方法を考慮にいれて買う」の項目と，外出着の場合は，「ウィンドウショッピング」，「衝動買い」および「バーゲンセールの利用」の項目と環境保全・省資源を意識した生活行動との間に関連が認められた．